

## 科学史・天文学史講義で学生が扱う書籍

○玉澤 春史<sup>1,2</sup> (1.京都大学 2.京都市立芸術大学)

2016年度に全国の大学で開講された科学史関連の授業で教科書や参考書として扱われた書籍には各分野の科学史に関する書籍も多数扱われている（杉本 2018）。天文学史に関する書籍には歴史的に重要な天文学者の著作や現代の天文学者による概説など、講義提供者による講義の組み立てにあわせて様々な書籍が並んでいる。天文学全般の歴史的流れに対して言及するものが多い世界史としての天文学史がカバーされている一方で、日本国内への近代天文学の流入といった日本史としての天文学史は扱いが講義によると推測される。一方で学生が実際に読む。あるいはレポート課題などで選択する書籍についてはシラバスなどでは調べることができず、実際の授業ごとに観察する必要がある。報告者が非常勤講師として担当する科学史の授業において学生が期末レポート課題として扱う書籍は自由選択としており、選択された書籍の種類を見ると教科書・参考書として提示されている上述の書籍に比べ平易であり、入手がしやすいなどの傾向がうかがえる。上述した教科書・参考書の中には現在では入手がしにくいものも含まれており、学生が実際に手に取りやすい書籍から適切なものを確認する必要がある。